

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2791700079 | | |
| 法人名 | 株式会社 フレンド | | |
| 事業所名 | グループホーム フレンド筆ヶ崎(1) | | |
| 所在地 | 大阪市天王寺区筆ヶ崎町3丁目20番 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年5月21日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年9月7日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyvsoCd=2791700079-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 一般社団法人 市民生活総合サポートセンター | | |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル | | |
| 訪問調査日 | 令和2年7月15日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR環状線鶴橋駅から徒歩5分の場所にあり、ご家族様も面会に来られやすい。また施設から徒歩5分ぐらいの場所に公園やコンビニもあり、散歩や買い物に行かれます。更にはお隣には元気学園の園児たちが遊んでいるので、元気な声がよく聞こえ、1年に1度交流として、発表会もして下さいます。
誕生日月には誕生会などをしたりと、行事を計画しながらしております。
ベランダが広いので、外出が出来ない時などはベランダにテーブルと椅子を置いて日光浴をして頂いたりすることもある。介護職員のレベルアップの為に、研修を毎月行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所では、毎年事業所独自の目標を掲げると共にユニット毎に行動目標を立て、笑顔の輪をキーワードに職員間で協力して利用者支援に取り組んでいます。半期ごとに目標の実践状況を確認することで理念の実現と新しい目標の具体化に繋げています。また、研修は年間計画に沿って実施されると共に、必要に応じて都度行い、職員は知識や技能の向上の機会を持ち日々の支援や運営に活かしています。排泄支援では利用者個々の排泄の記録や排泄状況を綿密に調べ、一人ひとりに合わせた声かけや排泄用品の選択などを行う中で失敗が減るなど幾つかの変化が現れています。職員は利用者の思いに寄り添いその実現に努め、花が好きな声に意見を出し合いテラスで花を見れるように周辺を整える等、利用者が日々楽しく暮らせるように支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3ぐらいの 3. 利用者の1/3ぐらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3ぐらいと 3. 家族の1/3ぐらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3ぐらいが 3. 職員の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3ぐらいが 3. 家族等の1/3ぐらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域の中でその人らしく暮らす。地域に密着した尊厳のある生活。その人がその人らしく暮らす。を理念としています。ミーティングなどで話し合い、実践できるように取り組んでいます。 | 毎年事業所独自の目標とフロア毎に行動目標を立て玄関やフロア等に掲示して職員に意識付けを行い、職員の入職時には目標に込められた思いを説明しています。半年毎に実施する職員の個別面談で理念の実践状況について確認しています。また、毎年新しい目標を立てる際は前年の振り返りも踏まえて立てています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 運営推進会議を通じ、自治会や地域のイベント等の情報交換を行っている。 | 従前であれば、自治会長から地域の情報を得て、利用者と近隣の公園での祭りを観に出掛けたり、隣接の保育園の園児の訪問により遊戯の披露を楽しんだり利用者が作った折り紙の作品をプレゼントする等交流を楽しんでいますが、今期はコロナ禍で出来ないことが増えています。今後もボランティアの活用を検討する等、地域との交流を深めるように努めています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 施設での取り組みや、イベントへの招待など運営推進会議を通じて発信している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 情報交換を頂きながら、ご家族様や認知症のご利用者様にも参加頂き、意見を述べて頂いている。 | 会議は2か月に1回利用者や自治会長、ケースワーカー、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催し、利用者の状況や活動、研修の報告、予定の連絡、事故報告等を行い意見交換をしています。地域の行事の案内をもらい参加を検討したり、事故報告をした際には他事業所の取り組みを聞き参考にする等、会議を運営に活かすよう努めています。 | 会議には家族への声かけなど行っていますが、参加には繋がっていない状況があり、革めて会議の意義を伝えたり議題の工夫をするなど、継続的な働きかけにより会議への家族の参加が得られることを期待します。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 公費の方が多いため、担当ケースワーカーさんと話をする機会が多く、色々と支援にかかわるアドバイスを積極的に頂いている。 | 運営上の手続きや相談等で行政の窓口へ訪問し、また、電話でも相談や不明点の確認等を行っています。行政より運営上の注意喚起等の案内が届き職員に周知することで行政との協力関係の構築に努めています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしない為に、研修の中に取り込んだり、また身体拘束適正会議を定期的実施している。 | 入職時はじめ年2回身体拘束の研修を実施し、職員は知識を身に付けています。安全に移動できるよう夜間にセンサーを使用している利用者がいますが、家族の了承の下、定期的に職員間で必要性など検討しています。玄関は市街地でもあり常時施錠していますが、外出希望の利用者には傾聴し気分転換をしたり、職員が付き添ってフロア間を行き来したり、散歩に出掛けるなど閉塞感の無いように支援に努めています。 | |

グループホーム フレンド筆ヶ崎(1)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止関連法について、新人研修や、コンプライアンス研修を実施している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人が、一部ご利用者様に就かれたことにより、職員との話し合いをもうけ、支援を実施している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 実施している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 都度、ご家族様とご利用者様の相談援助を実施している。担当者会議の時にも確認など行うようにしている。 | 利用者には日々の関わりの中で要望や意見を聞き、花を育てたい声に応じてベランダで花の栽培をするなど対応をしています。家族の意見や要望は面会時や電話等で聞いています。家族より編み物が好きな利用者にボランティアを活用したいとの要望を聞き、他の方にも声を掛け編み物を継続して楽しんでもらう等、得られた意見を運営に活かせるよう取り組んでいます。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ユニット毎に会議を開催し、意見陳述が行える機会を設けている。個別でヒヤリングなどの時にも意見を聞いたりしている。 | 職員からの意見や提案は、年2回の個人面談や一対一会議、必要時に実施するミーティング等で聞き、また様子を見て声を掛けるなど日々の中でも聞いています。職員は困り事や、利用者の見守りへの提案など意見を出し合い、ケアの統一を図る等、意見を運営に反映しています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 努めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修や、内部研修等を実施したり、教育支援制度を利用し、資格取得したりと取り組んでいる。 | | |

グループホーム フレンド筆ヶ崎(1)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修や資格取得の支援などの機会を通じ、他事業所との交流の機会をもてるようにしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初回面談では、緊張されることもある為、安心してお話できる雰囲気づくりをしてから、困っていることや、していきたいことなどを確認しながら関係が作れるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初回面談時に、入所を考えられるきっかけを確認しながら、またニーズを聞き支援できることなどを伝え、相談にもものように努めている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初回面談時に、お話をし、家族にもニーズや出来ていることや出来ない事を確認し、ご本人の生活歴なども確認して対応するように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人様の出来る事をして頂き、できない事もサポートしながら少しでもご自分の力を出せるよう支援して行っている。また、ご利用者様同士が協力できるように声かけなども支援している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人のご要望を聞きながら、家族様にも情報を頂いたり、ご本人の状況により、ご家族様にも協力をお願いしながら築いて行っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 外出の機会をもうけている。また、家族に写真などを持って来て頂いたり、支援に努めている。 | 馴染みの人や物、行きつけの店などを利用者から聞き、出来ることに向けて支援をしています。友人や親戚の来訪もあり、主に居室での団欒を楽しんでもらっています。家族と自宅や喫茶店、墓参り等に出掛ける際には服装や薬等の事前の準備を支援したり、年賀状を作成する利用者には投函を支援する等、馴染みの関係が継続できるよう努めています。 | |

グループホーム フレンド筆ヶ崎(1)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者様同士が気が合う方の近くに席を作ったり、間に職員が入り、場を盛り上げたりしながら、関わりあえるように支援に努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要に応じた相談・支援は行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 話を聞き、意向に添えるように努めている。また、困難な方にはどのように支援していけば良いか、ミーティングで、その人の立場になり考えるように努めている。 | 入居時に自宅や施設等へ訪問して利用者や家族と面談し身体状況や生活歴、嗜好、思いや希望等を聞き、以前のケアマネジャーや施設からも情報を得て職員間で共有しています。入居後は日々の関わりの中で利用者から思いや意向を聞き、把握困難な場合でも表情や様子から汲み取ったり家族にも相談する等、職員間で本人本位に検討して思いや意向の把握に努めています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 実施している。 | アセスメントを基に作成した介護計画は1年毎の見直しを基本とし、利用者の状態に変化があれば随時の見直しをしています。モニタリングは6か月ごとに行い、計画の見直しの際は再アセスメントを実施し、サービス担当者会議を開き利用者や家族、医師の意見を反映しています。また、サービス担当者会議に家族の参加を得られることもあります。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日の申し送りや、フロアミーティングなどで、話し合うようにしている。 | | |

グループホーム フレンド筆ヶ崎(1)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|----------------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 実施している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 支援している。 | 入居時に協力医について説明し、従前のかかりつけ医の継続か協力医への変更を選択してもらっています。協力医からは月2回の往診や、24時間の対応があり必要な指示を受け、月2回訪問看護師の来訪で健康チェックを受けています。利用者の希望や状態に応じて歯科の口腔ケアや訪問マッサージ、訪問リハビリ等を受けています。必要な項目についてはノートで家族と確認できるようにしています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常に看護師には相談している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 実施している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 支援している。 | 入居時に利用者が重度化した際の事業所としての対応を家族へ説明しています。利用者が重度化した際には医師より説明をもらい再度家族に意向を確認し、家族と医師、職員間で話し合い方針を決め、家族から頻回な面会等の協力を得ながら看取り支援をしています。また、年1回看取り支援の研修を実施し対応手順なども含めて職員は知識を身に付けています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 実施している。 | | |

グループホーム フレンド筆ヶ崎(1)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---------------------------------------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 築けている。 | 訓練は年2回それぞれ昼夜を想定し、内1回は消防署の立ち会いの下に利用者も参加して通報や避難誘導、初期消火等を実施しています。運営推進会議で訓練の案内や報告を行っています。2～3日分の水や食品等の備蓄やヘルメットや懐中電灯、手袋、救急袋等を準備しています。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 実施している。 | 毎年接遇の研修を受け職員は知識を身に付けています。基本は苗字で声かけを行い、親しみを込めた丁寧な言葉掛けをするように職員に伝え、不適切な言葉かけ等が見られた際にはその都度注意し、職員同士でも注意し合っています。入浴や排泄介助時は利用者の希望に応じて同性介助を行い、羞恥心にも配慮した支援に努めています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 実施している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 実施するように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 実施している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 器を考えたり、出来る事をお願いしたりして実施している。 | 業者から調理済みの食事が届き温めて提供し、ごはんやみそ汁は事業所で作り、利用者は食器を洗う等出来ることに携わってもらっています。出来る限り毎月イベント食を実施し、鍋料理や海鮮ちらし寿司等を作って提供しています。また、出前で寿司を取ったり、どら焼き等のおやつを手作りして提供したり外食に出掛ける等、食事を楽しめるような支援に努めています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ご利用者様にあった食事形態で提供し、水分量も把握できるように支援している。 | | |

グループホーム フレンド筆ヶ崎(1)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯科衛生士の毎月の指導のもと実施している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄リズムを考えながら支援している。 | 利用者個々に排泄の記録を取りパターンを把握し、一人ひとりに応じて声かけを行っています。排泄の支援を継続して、入院時におむつを使用していた方が紙パンツに変わる等、排泄状況が改善した方もいます。個々に応じた排泄用品の種類や支援方法は会議や日々の中で職員間で検討し排泄の自立に向けて取り組んでいます。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 飲み物も気をつけたり・ホットパットをし、腹部を温めたり、運動を促したりしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 実施している。 | 入浴は少なくとも週2回を基本として午前中に支援し、希望に応じて回数を増やすこともあります。拒否が見られた場合は職員を代えたり日時を変える等、声のかけ方を工夫して無理なく入浴してもらっています。状況に応じてシャワーや清拭に切り替えたり、一人ずつ湯を入れ替え、入浴剤を使用する等、気持ちよく入浴が出来るよう支援しています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 実施している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 支援している。 | | |

グループホーム フレンド筆ヶ崎(1)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--------------------------------------|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 努めている。 | 感染症流行前には日々散歩や買い物に出掛け、季節に合わせて初詣や桜の花見に行ったり、公園や動物園に出掛けることもあります。友人と外出したり、家族と買い物や外食を楽しむ利用者もいる等、出来る限り外出する機会を持てるよう支援しています。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 実施している。 | フロアに利用者が書いた習字を掲示したり、利用者と職員で季節の飾り付けを行い温かい雰囲気を作っています。テーブルの配置や座席は利用者同士の関係性を考慮して決めています。温湿度計を設置して利用者の体感を聞きながら室温を調整し、毎日換気や利用者も出来ることに携わりながら掃除を行い快適な共用空間作りに努めています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 実施している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居される時に、なるべく馴染みの物を持参いただくように、お願いしている。 | 入居時に家族に馴染みの物を持って来てもらうよう伝え、テレビやテーブル、いす、筆筒、家族の写真、仏壇等を持ち込まれ利用者や家族で暮らしやすいように配置しています。ぬいぐるみや編み物の道具等を持参し楽しんでいる利用者もいます。快適に過ごせるように毎日換気や利用者も出来ることに携わりながら清掃を行い清潔保持に努めています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 福祉用具を使用しながら、安全に暮らしているよう工夫している。 | | |